

旭川モーニングロータリークラブ会報

第 1005 回例会 Vol.22 No.10 2014.9.18 (木) 点鐘 18:30

Morning Rotary Club

会長：小柳裕子 幹事：嵯城俊明

9月「新世代のための月間」 例会プログラム＝紅葉・アクト合同夜間例会

於：居酒屋ししとう（旭川市4-8アピスビル地下1F）

（9月11日 第1004回例会の記録）

開会宣言 宮永憲一 SAA

四つのテスト 小川伸治会員



1005回例会を
開会します。
会長！点鐘を
お願いします！

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか



ゲスト紹介 小柳会長
北海道新聞 旭川支社長 高田正基 様
演題「新聞の言葉 言葉の力」

ビジター紹介
（9月11日分） ございません



会長挨拶

皆様おはようございます！

今朝は高田様をお迎えしての例会で少し緊張しております。

今年度、会長に成りまして本日の演題ではございませんが、私は言葉の怖さを感じております。肩書が付くと私個人だけの言葉ではなくなり、モーニングの言葉ととられる場合があると思います。それが活字となり、ましてやホームページが開設されましたのでネットに載り不特定多数の人が見る。考えると色々な意味で怖くなり、言葉の責任の重さを考えずにはられません。

「病は口から入り、禍は口から出ず」ということわざがございます。

口から入るほうも出るほうも十分気を付けたいと思います。

口から入る方と云えば食欲の秋・・・今週末13日から北の恵み“食べマルシェ”が開催されます。各地の特産を楽しみたいと思います。

福居さんのお店も7条緑道・スイーツコーナーに出ますね、楽しみです。

皆さんも足をはこばれてはいかがでしょうか。

これで会長挨拶と致します。ありがとうございました。



会務報告 嵯城幹事

第 1004 回例会会務報告

- 1) 一般社団法人ロータリーの友事務所より、「ロータリーの友」英語版 注文書 收受。年1回11月発行 1冊=500円+消費税(送料込)
* ご希望の方は、お名前をご記入ください。
- 2) 国際ロータリー第2500地区紋別ロータリークラブより、創立60周年 記念式典終了の礼状 收受。
- 3) 日本国際飢餓対策機構より、国際協力カレンダー「地球家族」2015年 版並びに飢餓対策ニュースNo.290 收受。
* カレンダーは購入申込みもできます(詳細は別紙参照)



委員会報告

ロータリー財団・米山委員会 河崎委員長

GG1524113 事業担当委員会から報告



3330 地区のキャンチャブリーロータークラブの Global Grant Project キャンチャブリー小学校の水の浄化装置の GG1524113 プロジェクトの覚書が届きましたので竹澤委員長のサインを入力して 3330 地区に返送いたしました。

後はキャンチャブリー小学校共同体のサインを記入して財団に申請する事に成ります。この覚書を後程回覧致します。PC でのやり取りで簡単に済むはずですが、どうもバージョンの違いか竹澤委員長の PC が駄々をこね入力する所に入力出来なかったりと難儀しておりましたので、私の所から発信させて頂きました。また当初 SomphopPDG が担当でしたが担当が変わりキャンチャブリー RC の元会長の Chalermchat Chun-in と云う人に変更されましたので報告いたします。



親睦委員会 福居委員長

次回 18 日は紅葉例会で、アクトとの合同夜間例会です。

場所は、居酒屋“ししとう”(4-8 アピスビル地下 1F) で、
会費は 3,000 円です。

当日、現在審査中の方をお客様にお迎えしますので、お楽しみに！！

広報委員会 笹川委員長

この度、我がロータリークラブのホームページが開設になりましたが、
広報委員会が「会報掲載の担当」をさせて頂きます。

そのため、今まで以上に記録ミスのない様に務めますが、会員の皆様も関連部分の
記載に誤記がないか“チェック”のご協力をお願いし、旭川モーニング RC の躍動
を少しでも正確に(外部)に発信したいと考えますので宜しくお願い致します。



ニコニコBOX 木村親睦委員

※ 9月11日現在 累計 140,000 円

北海道新聞社 旭川支社長 高田正基 様より、ご協力を頂きました。

竹村陽子会員 小川さん、宮永さん、ローターアクト大会へのご参加有難うございます。
ローターアクターにとっては、力強いかぎりです。

出席報告

友重例会運営委員長

第 1004 回(9 月 11 日)例会

総 員 25 名
出 席 24 名
出 席 率 96.00%

第 1002 回(8 月 28 日)例会

総 員 25 名
修正出席 25 名
修正出席率 100.00%



メイクアップ

9 月 4 日 井上雄樹会員・小野寺康充会員 (旭川東北 RC)

伝達事項

(前回の追伸)

前回の例会時に、匠工芸さんにホームステイされていた

「Mr. マーティン」が、桑原社長のご配慮で我がモーニング RC を訪問されご挨拶を頂きましたが、そのご挨拶の正確な内容を(株)匠工芸の三原洸太郎様から頂きましたので、遅れではございますがご披露させていただきます。

『私の名前は、マーティン・アレクサンダーソンと申します。スウェーデンの首都ストックホルムに住んでおりまして、カール・マルムステン工芸大学で家具の制作方法を学んでいます。』



3 年生のカリキュラムに、校外でのインターンシップがあり、北海道の「匠工芸」と京都の「+veve」に受入れて頂きました。日本の木工技術と手工具の使い方を学びたく、また日本の文化や料理に興味があり、日本へのインターンシップを希望しました。 僕の予想を超えて、日本での生活は素晴らしく、日本人たちの親切心に感動しています。 また日本料理も大好きです。

日本の工場とスウェーデンの工場の規模や機械の充実度にそれほど違いはありません。

しかし、日本の工場では時間管理がとても厳しく行われており、それによって生産性を上げていて驚きました。また日本の手工具は素晴らしく、仕込み方や研ぎ方を学んで、スウェーデンに帰ってからも使えればと考えています。 今日はお招き頂きありがとうございました。』

理事会議事録

嗟城幹事

《9 月 11 日 (木) 役員理事会 議事録》

* 福居恵美子会員より、会員候補者の氏名の提出があった

有限会社デー・ドレープ 代表取締役 林 雅美 様

理事会は候補者の入会を承認した 9 月 18 日の例会にゲストで参加

* 例会プログラム

10 月 2 日 会員スピーチは (米山月間について) 安井会員

10 月 9 日 休会

10 月 16 日 インシエーション・スピーチ 担当委員会はクラブ運営委員会

10 月 23 日 職場訪問 日本メディカルプロダクツ様 東川工場

集合時間 9:30 分 例会時間 (工場見学含んで) 1 時間 30 分ほど予定

10 月 30 日 3 クラブ合同例会 担当クラブは、東北 RC 会場: 花月会館



演題：「新聞の言葉、言葉の力」

おはようございます。北海道新聞の高田です。日ごろ、北海道新聞をご愛読いただき、ありがとうございます。こういう機会をつくっていただいて感謝しています。

私は北空知の秩父別町で生まれ18まで暮らしました。高校を出て大学進学のため上京、大学を出て北海道新聞に入り、ずっと編集の仕事をしてきておととしの6月に旭川に着任しました。

これから少し、わたしが記者という仕事、言葉を道具にする仕事をしてきて考えてきたこととお話しさせていただきます。新聞とは何か、新聞の言葉とはどんなものか。前半は新聞の文章作法みたいなこと、後半で東日本大震災をめぐる語り、書かれた言葉を紹介しつつ、言葉の力

ということについてお話しします。

まず、ある小話を紹介します。

しばらく前、「タイタニック」という映画がヒットしたあと、世界で広まったジョークだそうです。

タイタニックが沈没しそうになって女性と子どもはボートで脱出した。男性は海に飛び込まなければならない。そのときなんとと言えば飛び込んでくれるか。

アメリカ人には「飛び込めばヒーローになれますよ」

ドイツ人には「これは命令です」

イギリス人には「ジェントルマンと呼ばれますよ」

イタリア人には「あっ、美女がおぼれている」

そして日本人には耳元でそっと「皆さん飛び込んでますよ」

これは各国の国民性を端的に言い表したジョークです。日本人は集団行動をとる民族だと見られているのですね。同調圧力、職場など特定のグループにおいて意思決定を行う際に、少数意見を有する者に対して暗黙のうちに多数意見に合わせるよう強制することを指します。戦後の民主教育のなかで個性重視、個性尊重が叫ばれてきましたが、いまの日本を見ていると異論の声を上げにくい、同調圧力がひところより強まっているように感じます。それを踏まえて話を進めます。

6年前、同志社大学大学院教授でエコノミストの浜矩子さんが札幌で講演し、よきジャーナリストの条件ということをお話されました。

独善的、懐疑的、執念深い、ということです。

独善的というのは、自分は正しいと思っていること。

懐疑的というのは、自分以外の人間はみんな間違っていると思うこと。

執念深いとは、絶対に敗北を認めないこと。

要するに相当性格が悪くないと、ジャーナリストは務まらないということです。

今年の春、ある週刊誌で評論家の佐高信さんと作家の辺見庸さんの対談を読んだのですが、そのなかで佐高さんがこんなことを言っています。

新聞労連の講演で「皆さん方は新聞をつくり、売ることを上品な商売だと考えていやしませんか。ジャーナリストの仕事はゆすり、たかり、強盗と同じですよ」と話したんだそうです。するとみんな嫌な顔をする。確かに私たちは勘違いしているのかもしれませんが、浜さんの指摘と相通ずるところがあると思います。

佐高さんはその反応にがっかりしたようですが、講演のあと、若い女性記者が「わたし、立派な強盗になります」と言った。それが救いだっただけです。

さてわたし自身はどれほど立派な強盗だったか、あまり自信はありません。

浜さんの話に戻ります。浜さんのよきジャーナリストの条件には続きがあります。本当にするどいのはここからです。独善的で懐疑的で執念深い目の人間が発する言葉はどういうものであるべきか。それは「荒野で叫ぶ声」だということです。これは聖書の言葉だそうですが、つまり荒野で発せられる声は反体制の声、反骨の声、体制に対する怒りの声だということです。

この反体制、反骨こそ昔のかわら版の時代から新聞に脈々と流れる血なのです。言葉を変えれば、同調圧力にけっして屈しない。それを浜さんに改めて教えられた気がします。たとえば北海道新聞は秘密保護法や集団的自衛権に反対して、そういう紙面を展開していますが、それも「荒野に叫ぶ声」なのだと思います。

「新聞研究」とう新聞協会の機関誌で、ある地方紙の社会部長が新人時代の経験を書いています。公立病院前のタクシー乗り場にタクシーの列ができるので道行くドライバーから苦情が相次いだ。そこで乗り場を玄関から少し離れた場所に移動させた。これを「前向きな対策」という記事に仕立てようとしたとき、上司に叱られた。「お前、分らんのか。病院から出てきた年寄りがそこからまた20メートル、30メートル歩かないといけない。その大変さ、お前は分らんのか」。些細な例ですが、この上司の記者精神こそ「荒野で叫ぶ声」だと思うのです。

新聞記者は言葉で世の中のことを伝える仕事ですが、その前提に取材という作業があります。極論すれば、どんなに名文家でも取材の出来ない人間は新聞記者失格です。多少原稿が下手くそでも、取材力のある記者の方が優秀な記者といえます。

では新聞記事とはどういうものなのか。それを少しお話します。

何より大事なものは客観主義ということです。私も新人のころ、客観的に書けとたたき込まれました。客観報道で大事なものは事実、factであり、当事者が語った言葉です。かつて、「がっくり肩を落とした」「唇をふるわせた」式の表現が幅をきかせた時代がありました。容疑者がつかまって留置場で一夜明かした後「食事をぺろりと平らげた」みたいな見てきたような記事もありました。道新ではありませんが、その昔、首が切断された女性の胴体だけの死体が見つかったとき「首なし美女の死体」なんて見出しもあったそうです。

取材記者が直接、間接に確認できた事実のみを書くことで、その出来事の本質を伝える。本質に迫る努力をする。それがジャーナリズムの基本です。たいそうな形容詞ではなく、事実こそもっとも説得力と迫力があるのです。

先日、ある本を読んでいて「未明」とはいつごろか、という文章に出くわしました。新聞記事ではよく「●日未明」と出てきます。新聞では午前0時から日の出までというのが、大体の定義です。だから午前0時5分でも未明です。読者からすれば「深夜」という時間帯でしょう。一般の人にとって未明は「まだ夜が明けきらない明け方ごろ」という感覚のはずです。新聞の「未明」はときに読者に違和感を与えることがあるかもしれません。

私が若いころ、見出しで「老女はねられ死ぬ」なんていうのがまかり通っていました。老女とはいくつからか、当時は大体60歳以上という感覚でしたが、いまは80歳でも新聞では使いません。今60代を老女なんて書いたら大変な批判を浴びます。「80歳女性」といったように表記します。新聞の言葉もこのように変わってきています。女史、未亡人・後家、婦女子、父兄、女傑、女々しい、などは性差別表現なので使いません。美人アナウンサー、美人選手もそうです。さきほどの「首なし美女」はこの点でも×です。

「右」という言葉が辞書でどう説明されているかご存知ですか。辞書を比べてみると結構面白い。「辞書を編む」(飯沼浩明著、光文社新書)という本に書いてあります。以下はその本の受け売りです。

子どもには「箸を持つ方」と教えたりしますが、左利きの子もいるので、これでは通用しません。

「広辞苑」では「南を向いたとき西にあたる方」とありますが、では「南」を調べると「日の出る方に向かって右の方」とあります。つまり左右を説明するのに東西南北を用い、東西南北を説明するのに左右を使う「循環論法」=堂々巡りになっているのです。これではあまりよろしくない。

「新明解国語辞典」では、「アナログ時計の文字盤に向かったとき、1時から5時までの表示のある側」

明の字の月が書かれている側」とあります。なるほど、と思いました。



「岩波国語辞典」では「この辞書を開いて読むとき、偶数ページのある側」。これは画期的な名解説と言われたそうですが、困るのは電子辞書です。

そこで「三省堂国語辞典」は「横に<広がる／ならば>ものうち、一方のがわを指すことば。「一」の字では、書きおわりのほう。「リ」の字では線の長いほう」としました。

余談ついでに国語辞典の語釈の話をもう少しします。

独自の語釈で知られる新明解国語辞典では[恋愛]がこう説明されているんです。

「特定の異性に特別の愛情をいだいて、二人だけで一緒にいたい、できるなら合体したいという気持ちを持ちながら、それが常にはかなえられないで、ひどく心を苦しめる（まれにかなえられて歓喜する）状態」。

国語辞典に「合体したい」って、ちょっと驚きませんか。

それから「特定の異性」とい表現についてはある辞書の編集部で議論なったそうです。同性愛の場合は恋愛ではないのか。これも難しい問題ですね。

いろいろ無駄話をしましたが、分かっているように思えてきちんと説明しようとするると難しい言葉が、新聞には頻繁に出てきます。それを手垢にまみれていない表現で分かりやすく説明する。それも新聞記者の仕事です。

東日本大震災から3年半がたちました。2011年3月11日、東北地方を大地震と巨大津波、そして取りかえしのつかない原子力発電所事故が襲いました。私たちを含む報道機関はさまざまな形で、被災地の状況、被災された方々の思いなどを伝えてきました。被災地を含む全国各地の有名、無名の方々も、たくさんの言葉をつむいできました。

震災を取材した記者たちはあまりの大惨事に、ときには無力感にも襲われました。伝える言葉が見つからないこともありました。それでも伝え続けなければならない。報道機関は事実をどう伝えるか、苦悩を続けました。

震災後、私は折りに触れ目にした短歌を書き写してきました。その中のいくつかを紹介します。

100行、1000行の記事より31文字のほうがよほど何かを伝えている。新聞もかなわない。

それから、お手元に「ありがとう」という詩もお配りしました。11歳の男の子が書きました。

この詩にも新聞はかないません。これらの短歌や詩を読むと、本当に言葉の力というのを感じます。

震災から2週間ほどあとの2011年3月26日の道新に土井隆義・筑波大教授がこう書いています。「私は言葉の非力を感じると同時に、またその威力を感じる。言葉は人の命を救うことはできないが、人の心を救うことはできるからである」

さらに言えば、新聞の言葉はときに命を救うことだってあります。

土井先生の文章に励まされながら、定年までもう少し頑張ろうと思っています。

ありがとうございました。